

## 編集を終えて

望月忠雄

私、望月は当初「生活者通信」編集委員会、制作担当として「生活者通信」に携わり始めました。しかし、委員長の山本さんが子会社勤務から本社勤務に代われ、運営会議にも出席できないほどの忙しさとなられたため、第3号以降はほとんど私の独断で「生活者通信」を編集・制作してまいりました。

そのため、当初、山本委員長が企画した読みがいのある「生活者通信」とはできず、単に12ページを埋めただけのものになってしまい申し訳ありません。また、発行日も大幅に遅れ形ばかりの月刊誌になってしまいました。

それでもどうにか1年間発行できたのは、杉原さんの毎月の「運営会議議事録」をはじめとする数々の寄稿があったからで、原稿を頂いた方々に感謝いたします。

私はこの12号で「生活者通信」の編集・制作から離れさせていただきます。そして、9月からは新しい形での「生活者通信」の発行が始まります。

編集・制作に携わりながら、私自信はこれまで「生活者通信」誌上であまり自分の意見を述べることをしてきませんでした。これは、編集者としての中立性を意識したためでもあります。主としては原稿を書く時間が取れなかったからです。今回は最後ということもあり、かなり偏った意見ではありますが私見を述べさせていただきます。

結論的には「平成維新運動」のパラダイムは変わってしまっている事を正しく認識しようということです。大前さんが提唱した「平成維新運動」は、大前さんが市民運動の一線を退いた今、それまでとはまったく違うものになってしまったのです。

「平成維新憲章」という理念を実現しようとするならば、大前さんが代表でいたときとは全く違う方法論をとるしかありません。当時は我々は大前さんの応援団で良かったし、他の行動を起こさず、応援団のみであることの方が正しい選択だったのかもしれませんが。

現在は、私たち自身が主人公でなければなりません。私たちの行動を通して社会に訴え、社会を変えて行くしかないのです。過去の会員をつなぎ止めるのが目的であったり、「大前通信」の普及が目的

であったりではまったく意味がない訳です。それでは少なくとも大前さんが次の選挙に出るまで何も変わりません。まして立候補すら約束されていないのですから。

私の独断では、この1年間の都民の会、そしてその周辺の動きでこうした力のある運動は「長妻さん」の活動と「住専集会」の2つのみであろうと思いません。会はこの2つにもっと力を集中すべきでした。しかし現実にはあまたある委員会活動のワンノブゼム（ツウオブゼム）としてしか位置づけられてきませんでした。

執行部は運動が会を分裂させる事を恐れている様に思えます。あたかも御主人様が帰るまで家を守ろうとする執事のようにも見えます。（失礼）何も恐れる事はありません。分裂は新しい種子がまかれることであり、運動は新しい仲間を作り出すからです。旧平成維新の会は鬼才・大前さんが代表でありながら、かくたる成果を上げられなかった事実から考えれば、旧平成維新の会など知らない人々が主役にならなければ、私たちの目的は達成されないのは客観的に・冷静に考えれば誰の目にも明かであろうと思われまます。

平成維新憲章実現のためにはどんな活動が有効なのかをしっかりと話し合い、その絞り込まれた運動に会全体で取り組む。執行部は自信を持って、先頭に立って運動をリードして行く。こうした会でなければやがて消滅します。

都民の会が運動する市民団体に生まれ変わる事を切望します。

### 会費納入のお願い

都民の会の会費は、御存知の通り年会費で¥3,000-です。そのため昨年7月・8月に入会された方には新年度の会費を納入頂く必要があります。今回、7月・8月・9月入会の方々には郵便振替納付書を同封しましたので、会費の払込をお願いします。